

イギリスからHello!(こんにちは)

最終回

地球温暖化の影響か、今年のロンドンは、日本と同様に暖冬傾向です。1月の平均気温は、91年ぶりの暖かさを記録したそうですが、1月末には、珍しく雪が降り、5センチの積雪となりました。子どもたちは、雪合戦をしたり雪だるまを作ったりと、大喜びでした。

さて、今回はロンドン日本人学校ならではの取り組みである現地校との交流について報告します。本校は、学部・学年別に現地校と相互交流を行っています。交流の歴史は古く、1978年が始まりです。交流の相手校は、近隣の現地校をはじめとして、スパニッシュスクール、フレンチスクール、ジャーマンスクールといった国際学校、バスで2時間以上もかかるような遠方の現地校とさまざまです。

教科の交流では、習字を教えたり、家庭科の調理実習として、手打ちうどんやお団子を作ったりします。中学部になると、通常行われている授業に参加することもあります。ほかに、こま、けんだま、おはじき、はねつき、お手玉のような伝統的な日本の遊びを紹介して、一緒に遊ぶこともあります。現地の子どもたちに最も人気のあるのが折り紙です。鶴や帆かけ船の折り紙をプレゼントすると、まるで宝物をもらったように喜んでくれます。

また、交流集会では、よさこいソーランや和太鼓の演奏、日本式の応援団などが人気があります。

日本人の小学生が英語で現地の子どもたちとコミュニケーションすることは、簡単ではありません。しかし、一緒に活動したり遊んだりする中で、心を通わせるこ

とができ、交流の終わり頃になると、すっかり打ち解けて、再会を楽しみにするほどです。しかし、継続的な個人レベルの交流を続けるには、プライバシーや安全面の問題があって、難しいのが現状です。それでも、日本では経験することのできない交流ができるので、子どもたちにとっては大きな財産となっているに違いありません。

木々のつぼみが膨らみはじめ、水仙もあちこちに芽吹き始めました。あっという間の1年でしたが、「ロンドンからこんにちは」のコーナーはこれが最終回となります。本校の生き生きとした子どもたちの様子を十分にお伝えできたかどうか不安ですが、今後も本校のホームページをご覧ください。三豊市の発展と皆様のご多幸をお祈りし、このコーナーを終らせていただきます。ありがとうございました。

ロンドン日本人学校 教頭 白川明徳



交流風景
習字で「友」という漢字を書いています

※ロンドン日本人学校のホームページ <http://www.thejapaneseschool.ltd.uk/> もご覧ください。

3月は『卒業』の時期です。開放感のみが先に立ち、気持ちのゆるみから取り返しのつかないことに陥ることがあります。本来、卒業は「ひとつの業を終えること・学校の全過程を履修し終えること」です。

この節目に次のようなことを親子で話し合ってみてはどうでしょうか。

成長を認め、ほめる

入学前の子どものことを思い出してみてください。ずいぶんと身体も心も、考え方も成長しています。子どもにそのことを教えて、一緒に喜んであげてください。親に認められ、ほめられることは、子どもにとって何よりもうれしいことだと思います。

周りの人に感謝を

最近の子どもは与えられたことを当然と認めてい

少年育成センター

一般用	72 -5039
FAX	72 -5497
少年相談	72 -5024

す。助けてくれたり、世話をしてくれたりする人には大部分の人がお礼を言えます。しかし、本当に成長させてくれる人は、間違った時に注意し、叱ってくれ、厳しく鍛えてくれる人です。このような人に素直に心から感謝することこそが、次への成長につながることを教えてあげてください。

これから進む道への準備を

卒業は、次へのステップの始まりです。新しく進む道は必ず義務や責任が重くなってきます。特に高校を卒業すれば社会人、大人として扱われ始めます。ルールを守り、責任を果たしてこそ認められます。自分の選択に責任を持ち、そこで努力し続けることの大切さを教えてあげてください。

式に臨む心構えを

以上のようなことをしっかりと話し合い、けじめをつけるのが卒業式であると同分かれれば、子どもは自然と身だしなみを整え、立派な姿勢で卒業式に出席するでしょう。

その姿を、ぜひ保護者として式場で見守ってあげて欲しいと思います。